

福岡県米麦大豆生育情報

平成30年8月30日
福岡県農林業総合試験場

水稻の生育概況と成熟期予測

1. 気象経過 [太宰府アメダス]

	7月25日～8月28日(35日間)				
	平均気温	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
	℃	℃	℃	hr	mm
本年	29.6	35.1	25.5	313	100
前年差(比)	+0.6	+1.1	+0.2	128%	54%
平年差(比)	+2.3	+2.9	+1.7	159%	45%

注) 平年は1981～2010年の太宰府アメダスの平均値。

2. 農林業総合試験場における生育概況

7月25日～8月28日の平均気温は平年より2.3℃高く、日照時間は59%多く、降水量は55%少なく、高温・多照・少雨で経過した。出穂期は「夢つくし」で平年より4日、「元気つくし」で2～3日、「ヒノヒカリ」で1日早かった。穂数は「夢つくし」で平年並、「元気つくし」で14～23%多く、「ヒノヒカリ」で平年並～8%多かった。今後の気温が平年並で経過すると、成熟期は「夢つくし」で平年より6日、「元気つくし」で3～4日、「ヒノヒカリ」で平年並～2日早くなると予想される。

3. 農林業総合試験場における水稻の出穂期、穂数と予想成熟期

調査場所	移植期	品種	年次	穂肥施用時		主稈葉数(L)	全穂数(本/m ²)	出穂期(月日)	予想成熟期(月日)
				カラー スケール	葉緑素計				
農産部	6/8	夢つくし	本年	3.9	37.1	13.8	381	8.05	9.06
			前年比(差)	-0.2	-4.1	+0.6	98	±0	-1
			平年比(差)	±0	-3.0	+0.8	100	-4	-6
	6/20	元気つくし	本年	3.9	36.0	13.6	401	8.17	9.24
			前年比(差)	-0.2	-2.0	+0.1	114	±0	-1
			平年比	+0.1	-2.1	+0.4	114	-3	-4
6/20	ヒノヒカリ	本年	3.4	34.5	14.2	413	8.26	10.05	
		前年比(差)	-0.4	-3.0	+0.3	103	+2	+1	
		平年比(差)	-0.3	-2.1	+0.7	108	-1	-2	
筑後分場	6/20	元気つくし	本年	3.5	36.4	13.6	506	8.16	9.24
			前年比(差)	±0	+0.5	-0.1	107	-1	-1
			平年比	±0	+0.4	+0.3	123	-2	-3
	6/20	ヒノヒカリ	本年	3.1	31.3	14.4	394	8.25	10.06
			前年比(差)	±0	+0.1	+0.4	96	+1	±0
			平年比(差)	-0.2	-2.2	+0.8	99	-1	±0
6/20	実りつくし	本年	3.0	31.2	15.0	388	8.30	10.15	
		前年比(差)	+0.1	+0.9	+0.2	97	+2	+1	
		前3年比(差)	-0.1	-0.2	+0.2	101	±0	±0	

注) ①平年値は平成20～29年の10か年平均値。

②カラスケールは群落葉色値、SPAD値は葉緑素計(SPAD-502)による上位展開第2葉の測定値。

③熟期は8月29日以降の気温が平年並(過去10年アメダス平均)で経過した場合の予測値。

④この値は暫定値で、今後変更することがある。

(1) 病虫害防除

病虫害は発生状況に応じて適切に防除を行う。特にいもち病、トビイロウンカ、斑点米カメムシ類は、ほ場での発生状況の把握に努め、適期に防除する。

(2) 水管理

出穂期～開花期は最も水を必要とする時期なので、ほ場が乾燥状態にならないようにする。その後は、間断かん水を行い、徐々にかん水間隔を伸ばす。なお、用水確保が難しいほ場では、水尻のせき板を高さ5cm程度に設定し、雨水をしっかり保つように努める。

台風襲来等で強風が予想される場合は、深水で稲体を保護し、脱水による青枯れや白未熟粒の発生を防止する。

落水時期は収穫前7～10日頃を目安として行き、登熟障害により収量、品質の低下が懸念される早期落水はしない。

(3) 適期収穫

収穫時期は出穂後の積算気温を参考に、黄褐色籾比率や籾水分を確認して決定する。特に、出穂期以降が高温で経過すると登熟期間が短くなるため、刈り遅れにならないよう留意する。

5. 農林業総合試験場農産部における大豆（フクユタカ）の開花期

7月10日播種の大豆の開花期は、8月19日で平年並である。

播種期	開花期	前年差	平年比
7月10日	8月19日	±0日	±0日
7月24日	8月28日	±0日	-3日

注) 平年値は平成20～29年の10か年平均値。

6. 今後の対策（大豆）

(1) 乾燥対策

ほ場の乾燥が激しい場合は、うね間かん水を行う。ただし、入水しすぎて湿害が発生することがないように留意する。

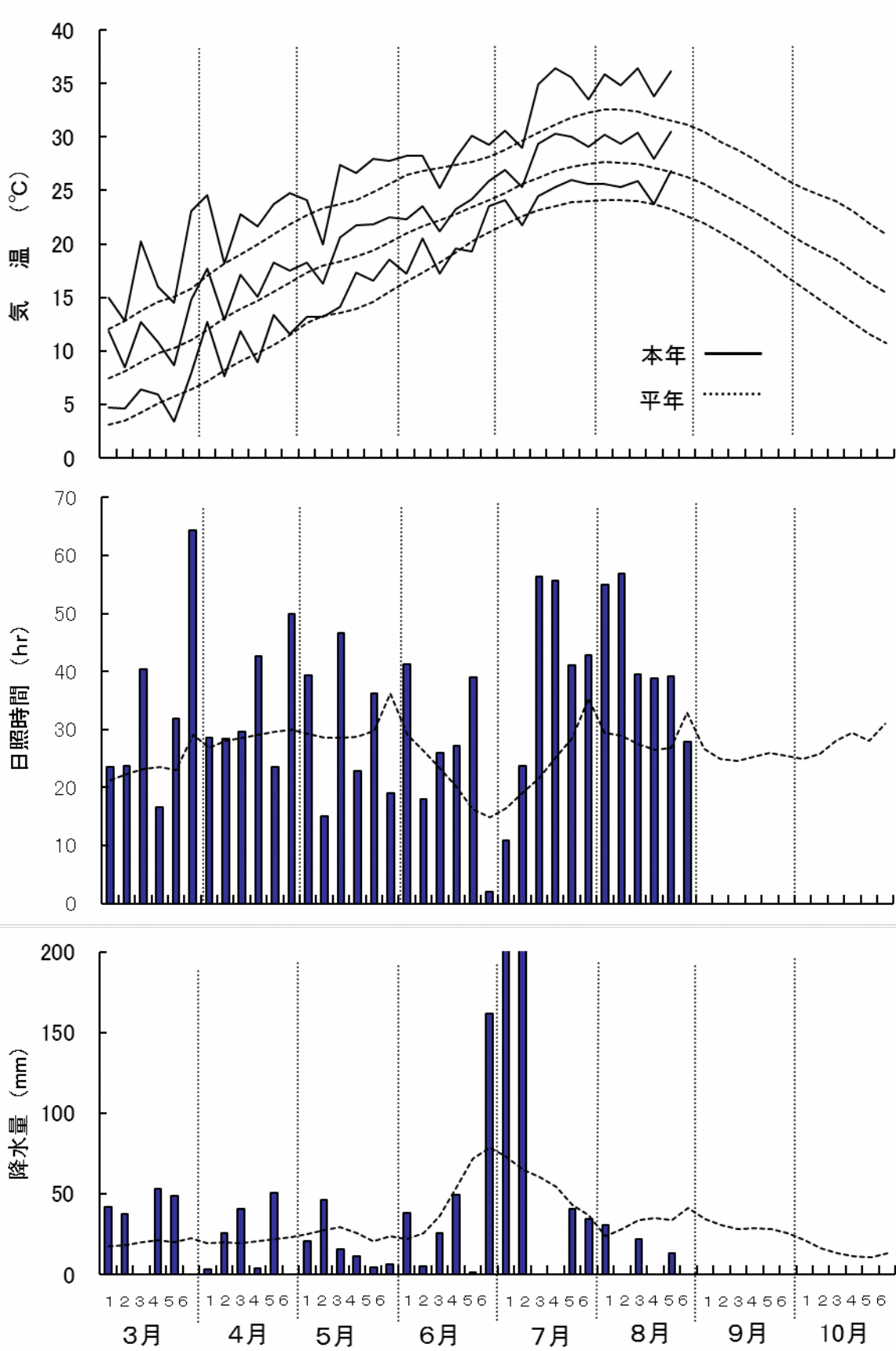
大雨で停滞水がある時以外は、本暗きょ管の栓は閉めて土壌の過乾燥を防止する。

地下灌漑システム（FOEAS）を整備しているほ場は、水位調整を行い有効に活用する。

(2) 病虫害防除

ハスモンヨトウは、各地に設置されているフェロモントラップの誘殺数とほ場での白変葉の発生状況とを総合的に判断し、適期防除を実施する。

カメムシ類は、開花後30日頃に防除を実施する。



2018年(平成30年) 夏作期間の気象 (太宰府アメダス)